

東京外国語会主催 文化講演会

## 「微笑みの国タイの政治経済は今？」

講師：宮田敏之 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

日時：7月9日（土）午後2時—4時（続いて懇親会）

場所：東京外国語大学本郷サテライト4階



### 講師紹介

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。広島県生まれ。専門は、タイ社会経済研究、東南アジア経済研究。1987年早稲田大学法学部卒業。タイ国立タムマサート大学大学院経済学研究科およびタイ国立チュラーロンコーン大学大学院経済学研究科留学。早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了。京都大学大学院人間環境学研究科博士後期課程修了。天理大学国際文化学部タイ学科助教授。2005年東京外国語大学外国語学部タイ語専攻助教授着任。2012年4月より現職。東京外国語大学タイ語研究室代表。主要な研究業績として、「東南アジア経済史 近現代 I：19世紀半ば～1930年代」水島司他編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会（2015年）、「屋台骨としての農業：しぶとく発展し続けるタイ農業」綾部真雄編著『タイを知るための72章（第2版）』明石書店（2014年）、「タイ産高級米ジャスミン・ライスと東北タイ」『東洋文化』（東京大学東洋文化研究所）第88号（2008年）など。JMOOCインターネット講義「新タイ経済発展論」担当（2016年1月～2月）。

### 講師からのメッセージ

東南アジアのタイ王国は、経済グローバル化の中で、自動車産業に代表される製造業が発展し、著しい経済成長を遂げてきました。日本企業のタイ現地法人数は中国に次ぐと言われ、日本とは極めて密接な関係を構築しています。2010年タイの名目GDPに占める製造業の割合は30%以上を占め、農林水産業の割合は約10%に低下しています。しかし、農林水産業自体の生産額は、製造業の発展した1990年から2010年の間においても、5倍に伸びています。この間の名目GDP全体の伸びが6倍ですので、農林水産業が決して衰退しているわけではありません。そこで、この講演では、2016年1月から2月にわたってJMOOC（日本オープンオンライン教育推進協議会）でおこなったインターネット講義「新タイ経済発展論」のエッセンスをご紹介します。タイの政治や経済に関する現代的な課題を解説したいと思います。具体的には（1）タイの政治混乱の行方、（2）タイ製造業の発展とその課題、（3）屋台骨としてのタイ農業です。特に、（3）では、世界市場で高級米として取引されるタイ産「香り米」のジャスミン・ライスを取り上げます。最後に、（4）東京外国語大学の地域研究の強みとその可能性についてもお話しさせていただければと思っています。